

児童生徒の道徳性を養うための「心のノート」の活用

道徳研究会議

研究員 岡部 啓子（川崎市立久末小学校）

牧寺 広作（川崎市立東小田小学校）

中澤 英之（川崎市立宮崎中学校）

山本 澄代（川崎市立稲田中学校）

指導主事 水之江 忠

I 主題設定の理由

平成 23 年度より、「心のノート」が文部科学省ホームページに掲載されることになった。これはより活用の幅を広げることができるようにしたものである。また、学習指導要領解説（道徳編）においても、「心のノート」の適切な活用について示されている。これらのことから「心のノート」のより一層の活用が望まれていることがわかる。その一方で、教員からは「どのように活用したらよいか迷っている。」「道徳の時間の活用が難しい。」といった声も聞かれる。

そこで、学校教育の様々な場面や道徳の時間での活用方法を探り、その効果を考えていく中で道徳教育の充実を図ることができるような事例を示していきたいと考え、本主題を設定した。

II 研究の内容

1 研究の方法

（1）「心のノート」の活用のしかたを探る

①道徳の時間での活用

道徳の時間の導入や終末での「心のノート」の活用の事例を見ることは今までもあったが、主たる資料としての活用の事例を見ることは少ない。これは、「心のノート」が道徳の時間の主たる資料として適切であるかどうかの判断に迷うところがあるからではないだろうか。

そこで、今までの活用の方法に加え、主たる資料としての活用の可能性も探ることとした。

②学校教育全体の中での活用

学習指導要領解説（道徳編）には、小学校、中学校どちらにも「道徳的価値について自ら考えるきっかけとなるものとして作成された『心のノート』の適切な活用が望まれる。」とある。このことから、「心のノート」は道徳の時間だけではなく、様々な場面での活用が求められている。

そこで、学校教育全体にも目を向けてどのような活用ができるのかを探ることとした。

（2）活用に関する効果を検証する

①検証授業（道徳の時間での活用）

道徳の時間に「心のノート」を活用した際に、ねらいに迫ることができたのかということ、次の点によりみていくこととした。

・ワークシート ・話し合い（グループなど） ・発言（発問に対するもの、役割演技など）

②各種ポスターについての意識調査（学校教育全体の中での活用）

市内中学校の 2 校で調査を行った。授業で積極的にこのポスター化したところに触れたクラスとそうでないクラスとの比較を行い、ポスターとして活用することの効果を見ることとした。

2 研究の実際

(1) 主たる資料としての活用

小学校2年生 検証授業①

<活用の方法や授業の様子>

<授業の流れ>

主題名「明るい気持ちで」 1 - (4) 誠実・明朗 資料名「うそなんかつくもんか」 ねらい うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活しようとする態度を育てる。	
導入	1. うそをついてしまった体験を想起する。 ○今まで、うそをついたりごまかしたりしたことがありますか？
展開	2. 資料を読んで話し合う。 ○本を破ってしまった時、ぼくはどんなことを考えたでしょう。 ○お母さんに「弟が破った」と話した、ぼくはどんな気持ちだったでしょう。 ○ロボットやぬいぐるみがにらんでいるように感じた、ぼくはどんなことを考えたでしょう。 ◎お母さんに本当のことを言った、ぼくはどんな気持ちになったでしょう。 3. 自分の生活を振り返る。 ○うそやごまかしをせず、本当のことを言って気持ちがすっきりしたことはありますか。
終末	4. まとめをする。 ○失敗してしまったことを正直に話した人のことを紹介します。

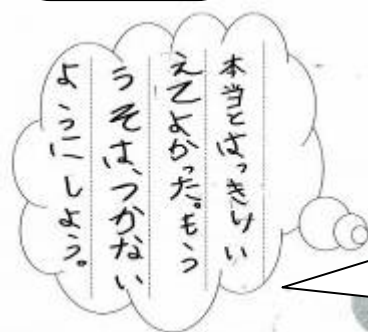


① 紙芝居形式にして読み聞かせ

② 紙芝居は、場面絵として使用



「ぼく」の気持ちの変化が分かるように、感情の変化を曲線にして表した。



中心発問ではワークシートに「ぼく」の気持ちを書いた。

<考察> ※「◎」はねらいにかかわる中心的な発問

今回の授業のねらいは、「うそをついたりごまかしたりしない素直な態度」を資料や自分の生活経験の振り返りから考えることである。紙芝居にした内容は子どもたちにとって身近な兄弟での話なので、場面を把握しやすいものであった。アンケートからも、内容や絵が分かりやすかったという子がほとんどであった。資料が分かりやすいということは、これから考える道徳的価値についても分かりやすくなると思う。

中心発問では、本当のことを言った「ぼく」の気持ちを考え、一人一人が考えを表出できるようにワークシートを使用した。「うそをついたら嫌な気持ちで、本当のことを言ったらいい気持ち。もう、うそはつかない。」「正直に言ってよかったな。弟にも謝らなくちゃ。うそをついたけど、本当のことを言ってよかった。」「正直に話すと気持ちがよいことや、これからはうそをつかないようにしようなどの、将来の生活への願いを書く子が多かった。これらのワークシートから、ねらいについて深く考えていることが分かる。

自分の生活への振り返りでは「本当のことを言って気持ちがすっきりした経験」を聞いた。「図鑑を読んでいて破ってしまった、弟のせいにしたけど、後でお母さんに本当のことを言えた。」と、資料と似たような経験を話す子がいた。この発言から資料の内容が子どもたちにとって、より身近であったことが分かる。アンケートにも、「今日の学習で、うそをついたら自分も、相手も嫌な気持ちになるからやめたほうがいいと思った。」と書く子が多く、ねらいとする価値について十分考えることができた。

中学校2年生 検証授業②

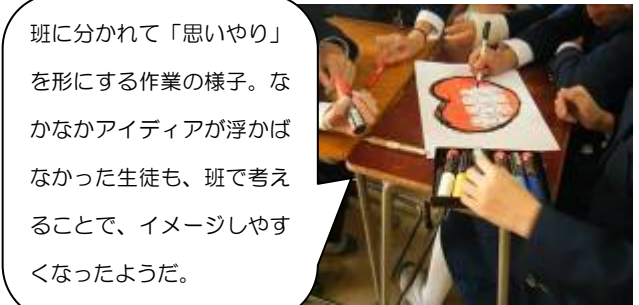
<授業の流れ>

主題名「思いやりの心」 2－(2)人間愛・思いやり 資料名「思いやり」って・・・なんだろう？ ねらい 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。	
導入	1. 「思いやり」について考える。 ○「思いやりをもって行動する」とは、あなたはどんな行為を思い浮かべますか？
展開	2. 絵を見て話し合う。 ○ケース1 入院している友達を見舞っています。元気づけにお見舞いに行きましたが、かなりの時間が経ってしまいました。 ○ケース2 宿題を忘れた友達に自分の宿題を写させてあげています。 3. 班で話し合う。 ◎あなたが思う「思いやり」はどんなことですか？ 思いやりは「かたち」はありません。もし「かたち」にするならばどんなイメージにしますか。→各班で発表
終末	4. まとめをする。 ○今日の授業を通しての感想を書く。

<活用の方法や授業の様子>



それぞれのケースについて意見を言った時の板書の様子。絵の下に意見を書くことで、意見が分かりやすかった。



班に分かれて「思いやり」を形にする作業の様子。なかなかアイデアが浮かばなかった生徒も、班で考えることで、イメージしやすくなったようだ。



各班で考えた「思いやりのかたち」を発表。自由な発想で、様々な色の思いやりのイメージや考えを発表した。

<考察> ※「◎」はねらいにかかわる中心的な発問

絵を黒板に掲示することで、生徒たちは同じ条件で絵を見て考えることができるため意見を出しやすかった。ケース1の場合、始めに表情を隠して授業を行ったため「その表情によって違う。」「余計に具合が悪いように見える。」「患者の具合がどうかだよね。」など同じ絵を見ながら意見交換ができ、いろいろな状況を考えることができた。「心のノート」は資料自体が生徒の状況にあった内容である場合が多いので、絵や言葉について考えを深めやすいと感じる。しかし、同じページに考えさせたい内容とねらいに迫る要素が含まれた内容とが掲載されている場合がある。そこで、文部科学省ホームページに掲載されることになったことを利用し、絵や写真だけを活用して話し合い活動を行った。そうすることで生徒自身が考え、ねらいに迫ることができたと思われる。

授業の後半で、班ごとに思いやりを「かたち」にするならどう表すかを考えるようにした。その発表では「思いやりは重い場合もあるので重い槍の形にした。」「相手のことを考えての思いやりがまた新しい思いやりを生むと思うので心と心が受け渡しているようなイメージにした。」など、ねらいに迫るイメージを作ることができた班がほとんどであった。前半で「心のノート」を資料として思いやりについて十分に話し合っていたことで、生徒は思いやりについて自分なりの考えをもっていた。そのことが思いやりを「かたち」として表す際の手がかりとして考えることにつながっていた。

「心のノート」は、読み物資料とは異なり、絵や写真、言葉を活用して考える時間が多い。しかし、そのものを見て考えを深めていくことで、自分を振り返りながらねらいに迫ることができる効果的な資料であると考えられる。

(2) 主たる資料以外での活用

小学校4年生 検証授業③

<活用の方法や授業の様子>

<授業の流れ>

主題名「くじけず最後まで」 1 - (2) 勤勉・努力 資料名「ぼくのへんしん」 (東京書籍) ねらい 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げるよう努力する態度を養う。	
導入	1. 心のノート「やりとげられたら金メダル」のページを見ながら、感じたことを発表する。 ○取り組んでみて感じていることを発表してください。
展開	2. 資料「ぼくのへんしん」を読んで話し合う。 ○「ぼく」は、体育の時間をどう思っていましたか。 ○「ぼく」は、お母さんの言葉を聞いて、どんなことを考えたでしょう。 ○お母さんに励まされた、「ぼく」は、どんな気持ちになったでしょう。 ◎足かけ後転が成功し、「雄志君は、へんしんしたのです。」と友達に言われて、「ぼく」はどんな気持ちになったのでしょうか。 3. 今までの自分の生活を振り返り、自分で決めたことを続けられたことを発表する。 ○これまでに自分で決めたことを続けられたことはありますか？
終末	4. 教師の説話を聞く。 ○水泳で目標記録を出すために、毎日練習した時のことを話します。



導入で、これまでの取組を振り返った。順調に達成できていたり、なかなかうまくいかなかったり…など、一人一人の現状を話し合った。



授業を終えてからは、これまでよりも意識的に取り組むようになった。また、うまくいかなかった日は、具体的な解決策を見いだすようにもなった。

※「◎」はねらいにかかわる中心的な発問

<考察>

子どもたちの「目標を立てても途中でうまくいなくなってしまう」という実態を踏まえ、夏休み明けに、学級活動において取組を始めた「やりとげられたら金メダル」のページを、授業の導入として扱った。取り組んで約1週間ではあるが、個々に差も出てきていたので、「毎日〇の数が増えていくからうれしいです。」「うっかり忘れてしまいそうになるので、気をつけています。」「続けられる目標と続けられない目標があります。」といった、一人一人の現状がそのまま出された。

このような思いを全員で共有して本時に入ったので、資料に出てくる主人公が抱く目標を達成できない時の消極的な気持ちや、失敗を恐れてなかなか実行に移せない気持ちにとっても共感していた。そして、周囲の人々の励ましを受けてやっとの思いで目標を達成し、もうこれからはあきらめないという主人公の強い決意を感じ取っていた。

初めは、「金メダルを取るためにがんばる。」という子が多かったが、授業を終えて、「自分が決めたことだから最後までがんばりたい。」という気持ちに変化していった。また、1ヶ月の目標を達成できなかった子は、翌月も同じ目標を設定していた。このような姿から、子どもたちが継続して努力することの大切さを実感していると思われる。

(3) 学校教育全体としての活用

「心のノート」に載っている名言のような言葉や詩などの頁で、生徒が目にして心に響くようなところをポスターのようにして、昇降口、廊下の掲示板、階段付近などに掲示した。生徒がこれらのポスターのようにした「心のノート」を見ることで、日常生活や行事、教科等の学習と関連して考えたり、道徳の時間の内容を考える際の助けになったりするのではないかと考えた。そのことが道徳性を養うことにつながると考え取り組んだ。

このように、「心のノート」をポスターのようにして掲示した場合、生徒にどのような変容がみられるのであろうか。そのことを知るために中学校2年生、3年生において意識調査を行った。ここでは調査対象として、ポスターのようにした「心のノート」について授業で積極的に触れたクラスと特に触れなかったクラスについて比較した。数値は、中学校2校計4クラスをまとめたものである。なお、このアンケートは、ポスターについて生徒がどのような意識をもっているのかを知るために調査したものである。そのため「心のノート」をポスターのようにしたものだけを聞いたのではなく、校内の各種ポスターについての意識調査である。

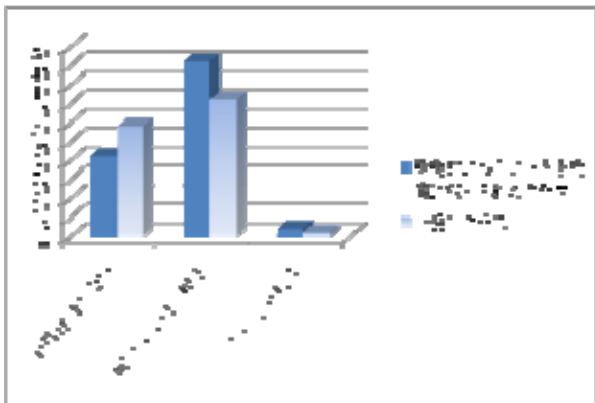


図1 <校内の各種ポスターについての意識>

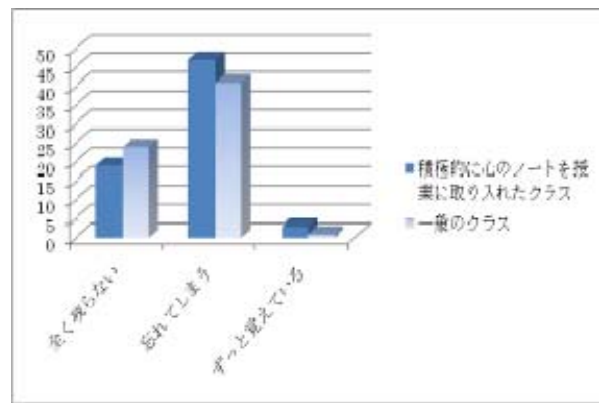


図2 <それらのポスターはどのくらい印象に残るか>

「心のノート」を積極的に授業で取り上げたクラスでは、各種ポスターの見方について、他クラスとの差が明らかに出た。それは、「印象に残るポスターはどのようなものか」という問いに対しての回答である。一般的に中学生が好みそうな、スポーツ選手や芸能人が出ているものより、「そのときの悩みとあっている」という回答が圧倒的に多かったことである。このことは、「心のノート」を積極的に授業で取り上げたこと

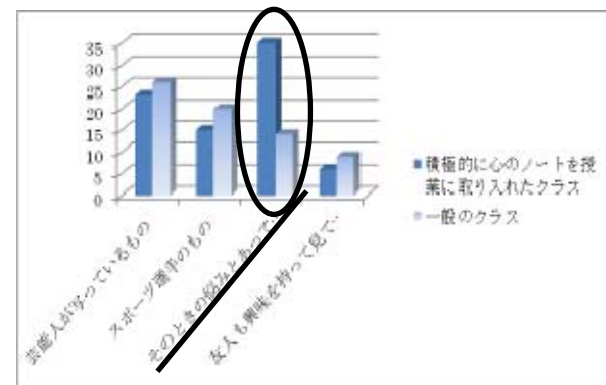


図3 <印象に残るポスターはどのようなものか>

ことで、ポスターを自分や他者の悩みに関連付けた見方もできるようになったことの表れではないだろうか。そしてこのような見方は、自分の悩みの解決に役立てたり、他者の悩みや思いに寄り添ったりするという行動につながっていくだろう。

したがって、「心のノート」を授業で積極的に取り上げ、またポスターのようにして活用していくことは生徒の道徳性を養うことに効果をもたらすことになるであろう。

Ⅲ 研究の成果と課題

1 成果

(1) 検証授業の結果から

①道徳の時間の主たる資料としての活用

小学校2年生の事例のワークシートからは、「本当のことを言ったらいい気持ち。」「これからはうそをつかないようにしましょう。」といったねらいに迫る考えを見ることができた。さらに、資料と同じような経験したことについて話すなどの自己の振り返りをみることもできた。中学校2年生の事例においては、「心のノート」の絵を見ながら自分の考えを発言したり相手の考えを聞いたりする中で考えを深めることができ、思いやりをイメージ化する際の大きな手掛かりとなっていた。そのことが自己の振り返りにもつながりねらいに迫ることができていた。

これらのことから、「心のノート活用のために」の冊子にも示されているように「心のノート」は副読本に代わるものではないので全ては主たる資料とはならないが、適切などころであれば主たる資料としての活用も考えられることが分かった。

②道徳の時間の導入での活用

小学校4年生の事例では、導入で「心のノート」を活用した。「心のノート」を導入で活用することは従来から行われていたことであるが、実際に検証してみることでその効果を見ることができた。それは、導入で「心のノート」を取り入れて授業を行ったことで、資料に出てくる主人公に共感することにつながっていた。そのことが、主人公の気持ちを考える際に大いに役立っていた。さらに、授業での子どもの気持ちの変化が「心のノート」を使った事後の活動へも影響していることが分かった。

(2) 学校教育全体での活用から

中学校においてポスターとしての「心のノート」の活用を試みた。生徒の感じ方はポスターとして掲示しただけでは、他に掲示されているポスターとの違いを見ることはできなかった。しかし、「心のノート」を普段から活用している学級では、生徒のポスターのとらえ方が変わってくることが分かった。さらに、悩みに関連付けて見ることができることにつながるなど、普段から「心のノート」を活用していくことの効果を見ることができた。

2 課題

今回の研究では道徳の授業を中心にその活用のしかたについて考えることが多かった。冒頭でもふれたが「心のノート」は道徳の時間以外での活用も考えられる。そのことを踏まえて、「心のノート」を「学校教育全体の中で」と考えてみると、もっと幅のある活用方法が見つかり、利用しやすいノートとなると考えられる。さらに、様々な場面での活用のしかたを探っていきたい。

最後に、本研究を進めるに当たり、適切なお助言をいただいた先生方、研究をご支援していただいた研究員所属校の校長先生ならびに教職員の皆様に心から感謝申し上げます。

【参考文献】

- | | |
|----------------------------------|-------|
| 文部科学省「心のノート 小学校1・2年 小学校3・4年 中学校」 | 2009年 |
| 文部科学省「心のノート活用のために 小学校 中学校」 | 2009年 |